（第3種郵便物認可）

学童保育 新たな選択肢

民間企業の進出、都市で広がり

小学生が放課後を過ごす学童保育に、民間企業の進出が都市部を中心に広がっている。親のニーズに応えるため、習い事や自宅への送迎などをするサービスが人気だ。共働き世帯の増加で学童保育の利用希望者が増える中、子どもたちが放課後を過ごす場が多様化している。（稲熊美樹）

じゃんけんで掃除する場所を決める子どもたち＝名古屋市千種区のHug－Pon！本山教室で

ニーズに対応 塾など送迎も

「じゃんけんぽん！」。一月初め、名古屋市千種区にある民間企業経営の「放課後スクールHug－Pon（ハグポン）！」本山教室。午後五時すぎ、掃除の担当を決めるために、スタッフと子どもたちがじゃんけんしていた。「掃除は子どもたちと一緒にやる重要な日課なんです」とスタッフ。じゃんけんは、楽しく掃除するための工夫だ。

学校はまだ冬休み。子どもたちは開室する午前八時半ごろに来て、夕方まで宿題をしたり、室内で自由に遊んだりして過ごす。午後六時ごろから、迎えに来た保護者らと帰り始める。

教室を運営するのは、通信制高校を開校しているKTC中央高等学院。市内で二〇一三年に教室運営を始め、現在は駅前ビルの一室などに八教室を構える。「保護者からの要望が強い」（同社）として、三月に二教室増やす予定だ。

民間企業だけあって、スタッフによる習い事の送迎や、自宅までの送り、最長午後十時までの預かりなど、保護者の要望が強いサービスを実現した。教科書を声に出して読む宿題が出されたら、スタッフが保護者役となり音読を聞くこともある。

同社アフタースクール事業部運営本部の伊津野滋民（いづのしげたみ）さんは「習い事の送り迎えなど、手がかかることを一手に引き受け、お母さんにとって便利な施設を目指しています」と話す。二年生の女児（八つ）を預ける医師の女性（三九）は「急な残業にも対応できるし、子どもの習い事も続けられてありがたい」と話す。

月謝は、週五日利用で四万八千六百円と安くない。入会金のほか、自宅への送り、午後七時以降の延長利用、夕食、夏休みなどの長期休暇の利用などは別料金だ。民間企業による塾の一種のため、行政からの補助金は一切ない。

学童保育の種類と特徴

種類	特徴
放課後児童クラブ	就労家庭などが対象。自治体などが設置。保護者会活動がある
放課後子供教室	学校内の余裕教室を利用。費用は安いが、休みが多く、時間が短い
民間企業などの学童	補助金がなく費用は高いが、多彩なサービスを提供

1万7000人 待機

学童保育は、市町村や保護者らが運営する放課後児童クラブと、市町村が学校の校舎などで運営する放課後子供教室、民間企業の教室の三種類に分けられる。施設ごとに運営の特色がある＝表参照。

このうち、放課後児童クラブに通うことを希望しても入れない待機児童は、全国で昨年度に比べて七千人増の約一万七千人（昨年五月時点）に達した。

文部科学省の放課後のあり方に関する検討会委員を務めた「放課後NPOアフタースクール」（東京都）の平岩国泰代表理事は「民間企業の進出で多様化し、選択肢が増えるのはいいこと」と評価する。

ただ、株式会社による教室は、都市部に限られている。平岩さんは「大人の人数が少なくて見守りが不十分な施設や、補助金を増やして充実した活動ができるようになった学童もあり、子どもたちに放課後格差が生まれている。社会基盤としてもっとお金をかけ、全体の底上げを図るべきだ」と話す。